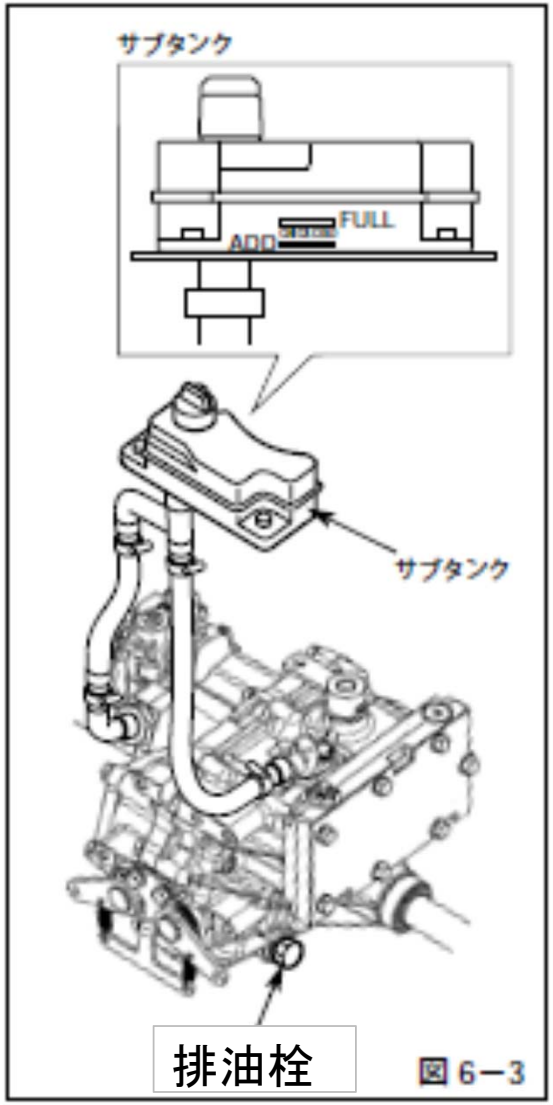
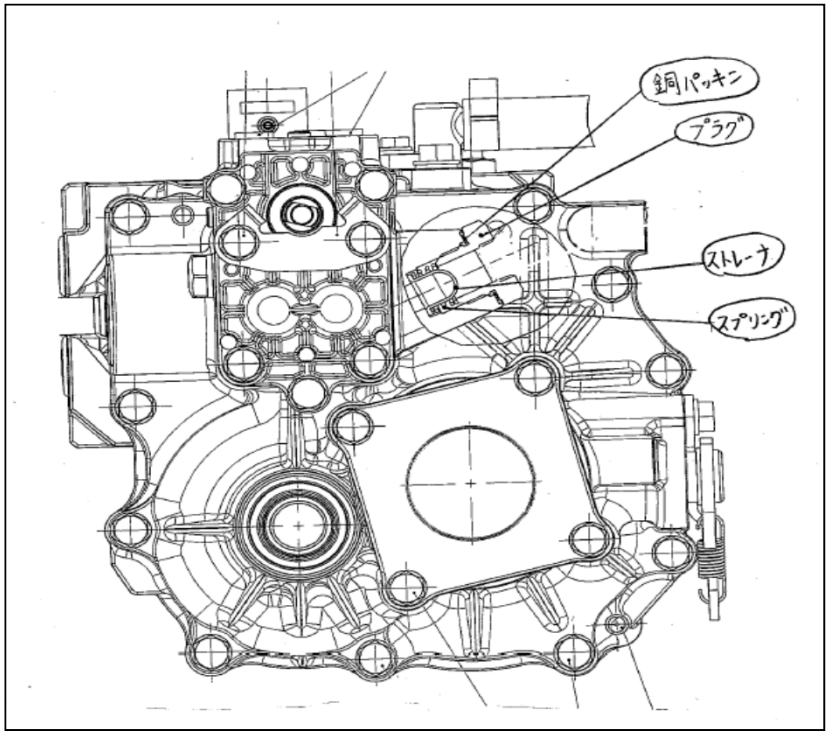


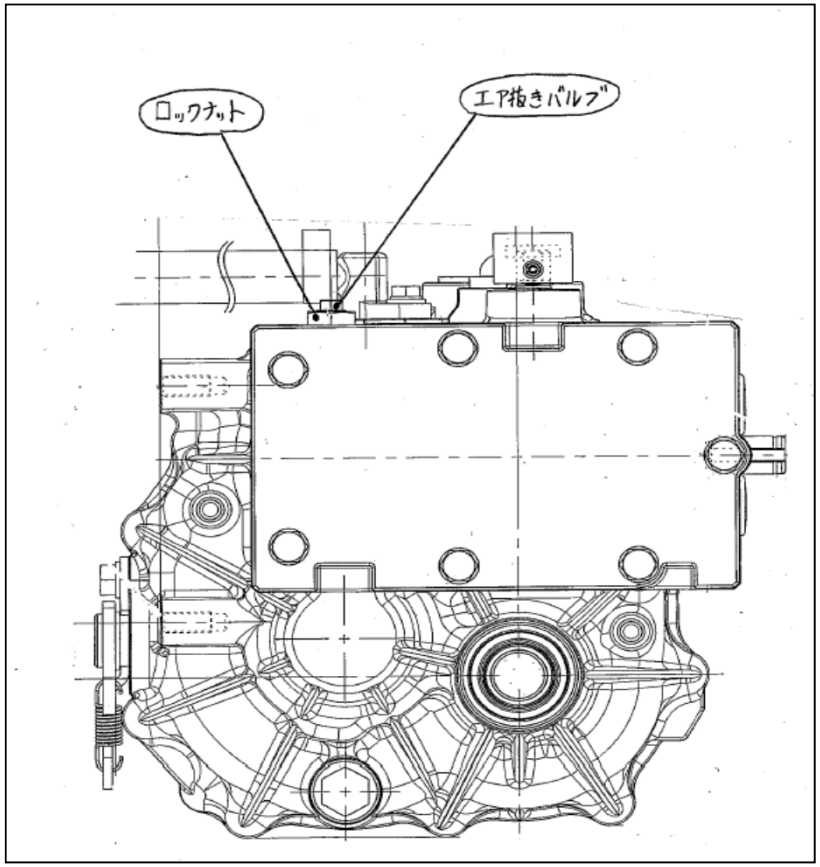
図 6−3

GR SB−10SCP	●走行ミッションは、HST及び油圧ポンプと一体となっています。 オイル点検は毎日行ってください。 【点検】 ● オイルレベルはミッションオイルが温度上昇すると、熱膨張により上昇します。 ミッションオイルが冷えている時にレベルの確認をしてください。 （常温：約20℃±10℃目安） ● オイルの油面がサブタンクのFULL～ADDの中間位置に見えることを確認してく ● オイルを入れ過ぎた場合、ミッションオイルの温度上昇によりオイルが熱膨張し ミッションに内圧がかかり、ミッション各シール部から漏れ出すことがあります。 オイルは入れ過ぎないでください。 ● 水が混入したり、オイルに異常がない限り、オイル交換の必要はありません。 使用オイル：エンジンオイルSAE 10W−30 CD級 ［ 交換手順 ］ 1.注油栓（リザーバタンクキャップ）と排油栓（ミッションドレンプラグ） を外し、オイルを抜いてください。 2.ストレーナーを取り出して洗浄してください。 ※別紙添付SB−10SCPストレーナ洗浄マニュアル参照願います。 3.完全に抜けた事を確認してから、排油栓（ミッションドレンプラグ）を締め、 注油口よりオイルを入れます。 4.オイルをリザーバタンクのFULL～ADDの中間位置まで入れ、 エンジンをかけてミッションを動かし、量を調整します。 5.注油が終わったら、リザーバタンクキャップを締めます。 廃油栓締付トルク：36.5±2.5　N・m ※注油時、オイルジョッキの先に＃150相当のメッシュを 付け異物の混入を防止してください。				
	初期交換時期	2回目以降	オイル種類	オイル規格	容量
一体型ミッション		シーズン前	エンジンオイル	10W−30	2.0L
サブタンク					0.7L



SB-10SCPストレーナ洗浄マニュアル
左図参照願います。
①プラグ及び銅パッキンを外してください。
②スプリングとストレーナを取り出してください。
③ストレーナに詰まっている異物を洗浄して取り除いて下さい。
④ストレーナを取り付けて下さい。取り付け方向がありますので左図参照願います
⑤スプリング、銅パッキンを取り付けてプラグを締めて下さい。
プラグ締付トルク:36.5±2.5N・m
◎走行はするが車速が遅い、またはエア噛み音がある場合、
◎まったく走行しない場合、
※SB-10SCPエア抜きマニュアル参照願います。

銅パッキン	23414-220029
プラグ	187C08-54200
ストレーナ	194556-42220
スプリング	187C08-54190



SB-10SCPエア抜きマニュアル
左図参照願います。
走行はするが車速が遅い、またはエア噛み音がある場合。
①エンジン高回転で、高速走行で前・後進（10m程度走行）を3～4回繰り返す。
②車速を確認する。
③オイル量がリザーバタンクの規定位置（FULL～ADDの中間位置）にあるかチェッ
足りなければ補充する。
改善されない場合
④エンジンを止める。
⑤エア抜きバルブのロックナットを緩める。
⑥エア抜きバルブが閉まっているか確認。（閉まっていなければ閉める：9.8±1N
⑦ロックナットを締め付ける。（19.6±3N・m）
⑧エンジン高回転で、高速走行で前・後進（10m程度走行）を3～4回繰り返す。
⑨車速とオイル量を確認する。オイル量が不足していれば補充の事。
※オイル量は常温状態で再度チェックする事。
まったく走行しない場合
④エンジンを止め、エア抜きを行う。
⑤エア抜きバルブのロックナットを緩める。
⑥エア抜きバルブを1/4程度緩め、ロックナットを仮締めする。
⑦エンジンを始動し、アイドリング状態にする。
⑧走行レバーを前進フルストローク位置にする。（30秒程度）
注意：
①エア抜きがなされた場合、急に本機が前方に動き出す場合があるので注意の事
②エア抜きバルブの緩め具合によっては、動き出さない場合もあります。よってエア
作業は完了している場合がありますので、⑨項からの作業に移って下さい。
⑨走行レバーを中立に戻し、エンジンを止める。
⑩ロックナットを緩め、エア抜きバルブを締める。（9.8±1N・m）
⑪ロックナットを締め付ける。（19.6±3N・m）
⑫エンジン高回転で、高速走行で前・後進（10m程度走行）を3～4回繰り返す。
⑬車速とオイル量を確認する。オイル量が不足していれば補充の事。
※オイル量は常温状態で再度チェックする事。